

1. 日本語教育部門

1. 日本語教育部門の沿革と実績

1.1 日本語教育部門の沿革

日本語教育部門（以下、本部門）は1996年に国際教育センターの前身である留学生センターの一部門として設置され、本学で学ぶ留学生の日本語教育を一手に担っている。特に、2010年の国際教育センター改組以降の留学生の増加・多様化、留学生や学内の様々なニーズに対応するため、日本語教育プログラムの整備・拡充を進めてきた。

2017年度、日本語科目の担当は専任教員4名、特任教員2名、兼務教員2名、非常勤教員14名であった。

表1：日本語教育部門沿革

1996年度：留学生センター設置
全学共通教育科目（中級～上級）に加え、日本語研修コース（研究留学生対象の日本語予備教育）を開設
2000年度：国際研究館内に移転
2004年度：日本語・日本文化研修留学生プログラム開設
2005年度：言語社会研究科内に設置された「日本語教育学位取得プログラム」に参画
2010年度：国際教育センターに改組
日本語研修コースを国際交流科目（HGP: Hitotsubashi Global Education Program）の一部に位置づけ、特任講師によるコーディネーション開始
日本語科目のレベル別技能別編成の拡充・整備
2011～2012年度：大学戦略推進経費を得て、社会科学の専門語彙・表現教育のための教材を開発
2012年度：大学院商学研究科経営学修士コース（留学生プログラム）の日本語教育支援を開始
国際企業戦略研究科の日本語教育プログラム開設を支援
2017年度：4学期制開始に伴う日本語科目のレベル編成の見直し・科目の拡充

1.2 日本語教育部門の実績

(1) 初級教育による成果

日本語初級レベルの留学生にたいする国際交流科目による集中教育は、一定の成果を上げている。日本語がほとんどできずに来日した大使館推薦・大学推薦の国費研究留学生が、本センターで初級集中教育を受講後、全学共通教育・学部教育科目の日本語科目で実力をつけ、各研究科の入試に合格し、修士号や博士号の取得に至ったケースも少なくない。また、留学生センターから国際教育センターへの改組後、交流学生も、初級集中教育の中心的存在として短期間で日本語力を向上させている。初級集中教育によるこうした成果の背

景には、国際教育センターへの改組によるスタッフの加入が大きい。2010年4月に特任講師が着任して以降、国際交流科目初級日本語コースのコーディネーターの業務を担当したことで、コースの安定的な運営が可能になっている。

(2) 学内共同利用機関としての役割の増大

本部門は、学内の日本語教育を一手に引き受けているが、その役割も多様化している。日本語・日本文化研修留学生(日研生)の受け入れや言語社会研究科での日本語教育者養成もその一つである。加えて2012年度から、大学院商学研究科経営学修士コース(留学生プログラム)の日本語教育支援を開始し、さらに春夏学期に週8コマの日本語科目を提供し、そのコーディネートを担当している。さらに、国際企業戦略研究科での日本語教育プログラムの開設を支援し、2012年度後半からプログラムが開始・運営されている。

(3) 社会科学の日本語の研究・教材開発

「社会科学の総合大学」である本学にあり、留学生が社会科学の専門分野を日本語で学習・研究できるよう、社会科学の日本語教育に力を入れている。本部門では留学生センター発足当時から学内予算等を得て教材開発を続けている。『一橋大学学術日本語シリーズ』第1巻～12巻を刊行したほか、2011～12年度には大学戦略推進経費の支援を得、「社会科学の専門語彙・表現教育のための教材開発」を行い、2012年度末にはその成果を4冊の教材として刊行した。これまで開発した教材の一部は、『日本法への招待』(2004、有斐閣)、『留学生のためのストラテジーを使って学ぶ文章の読み方』(2005、スリーエーネットワーク)、『留学生のためのジャーナリズムの日本語』(2015、スリーエーネットワーク)として出版されている。

2. 日本語教育プログラムで学ぶ留学生

本部門では、全学の留学生に向けた日本語教育プログラムを行っている。日本語教育プログラムで学ぶ留学生の категорияは大きく分けて以下の5つである。

- (1) 交換留学生(交流学生): 交流協定校から派遣される半年・1年の短期留学生
- (2) 大学院研究生(研究生): 大使館推薦・大学推薦の国費留学生および一定の条件を満たした私費留学生
- (3) 学部正規学生(学部生): 各学部 to 所属する学部留学生
- (4) 大学院正規学生(大学院生): 各研究科 to 所属する修士・博士の大学院留学生
- (5) 日本語・日本文化研修留学生(日研生): 海外の大学の学部 to 所属し、日本語・日本文化を主専攻とする1年間の国費短期留学生

学生の履修傾向は以下のようにまとめられる。

交流学生のうち、派遣元大学で日本語・日本文化等が専門の学生は日本語科目を中心に

履修し、その他の学生は自身の専門科目（英語で開講される科目も含む）の履修と並行して日本語科目を履修している。

研究生のうち、日本語が初・中級レベルの研究生は日本語科目を集中して履修し、上級レベルの研究生は専門日本語やアカデミック・ジャパニーズを扱う日本語科目を中心に履修する。大学院合格を目指して日本語科目を履修する学生が多い。

学部生のうち、1年生は「第二外国語」または「外国語科目（選択）」として日本語Ⅰ・Ⅱを履修することができ、主に国費留学生在が履修している。その他、1～3年生は本プログラム最上位の上級後半レベルの日本語科目等をニーズに合わせて履修し、学生生活を送るうえで必要な日本語を学んでいる。

大学院生は主に専門日本語やアカデミック・ジャパニーズを扱う日本語科目を中心に履修している。

日研生は他のカテゴリーの留学生とともに上級レベルの日本語科目を履修しつつ、日本語・日本文化研修留学生プログラムにおいて、日本語・日本文化研修生修了レポート執筆に取り組んでいる。

また、留学生以外にも外国人講師や外国人研究員等の聴講希望者も近年増加しており、積極的に受け入れを行っている。

3. 日本語教育プログラムの開講科目

本部門の担当する日本語教育の授業には、次のようなカテゴリーがある。これらの日本語の科目はすべて単位が認定される科目であり、本学の日本語教育の一つの特徴となっている。

- (1) 「国際交流科目」としての日本語科目（初級～中上級）
- (2) 「全学共通教育科目」としての日本語科目（中級～上級）
- (3) 「学部教育科目」としての日本語科目（中上級～上級）
- (4) 「大学院科目」としての日本語科目（上級）
- (5) 日本語・日本文化研修留学生プログラム（上級）
- (6) 大学院商学研究科経営学修士コース（留学生プログラム）の日本語科目（上級）

以下、6つのカテゴリーごとに担当者、開講コマ数、授業内容・到達目標について概略を述べる。併せて、留学生だけでなく日本人学生を含む学部生一般向けの開講科目についても述べる。

(1) 「国際交流科目」としての日本語科目

「国際交流科目」としての日本語科目は、1週間に複数コマ開講される総合科目であり、

学生はそれらをセットで履修することにより、日本語を集中的に学ぶことができる。学部生以外の留学生がプレースメントテストや初級オリエンテーションの結果をもとにそれぞれのレベルとニーズにあわせて選択、履修している。

表2:「国際交流科目」としての日本語科目

科目	担当者	コマ数	授業内容・到達目標
Survival Japanese 【入門】	松井・福岡	春夏/秋冬 週3コマ×14週	日本語学習の経験が全くない学生、または学習経験が非常に少ない学生を対象に、日本語の読む、書く、聞く、話す、の4技能を伸ばすことを目的としたコースである。授業では、学生が日常生活で出会う場面を想定した実践的な運用練習を行うことにより、日本に来て間もない学生がすぐにクラス外で日本語を使ってコミュニケーションできるようになることを目指す。
	太田・柳田		
Basic Japanese I 【初級前半】	松井 田中 福岡	春夏/秋冬 週5コマ×14週	日本語を勉強したことのない学生、あるいは少ししか学習したことのない学生を対象とする。日本での日常生活を送るために必要なレベルの日本語の能力を養成することを目的とする。とくに、日本での日常生活を送るために必要な、初歩的な文法、語彙、漢字を学び、読む、聞く、話す、書くの四技能の総合的な能力を養成することを目的とする。
	松井 田中 福岡		
Basic Japanese II 【初級後半】	松井 田中 村上	春夏/秋冬 週5コマ×14週	大学で150時間程度日本語を学習し、平仮名と片仮名、150字程度の漢字、初級文法の前半レベルをマスターした学生を対象とする。日本での学生生活を送るために必要な初級後半の文法、語彙、漢字を学び、読む、聞く、話す、書くの日本語の総合的な能力を養成することを目的とする。
	松井 田中 福岡		
Intermediate Japanese IA【中級前半】	西谷	春夏/秋冬 週1コマ×14週	初級文型の総復習と中級前半レベルの文型の導入を行い、実際に使えるようになるよう指導する。
	西谷		
Intermediate Japanese IB【中級前半】	松井	春夏/秋冬 週1コマ×14週	初級文型及び中級前半レベルの文型を使い、口頭表現の基礎力を養成する。
	鳥		
Intermediate Japanese IC【中級前半】	鳥	春夏/秋冬 週1コマ×14週	初級漢字・語彙の総復習と、中級前半レベルの漢字・語彙の導入及び、文章の読解を指導する。
	鳥		
Intermediate Japanese II【中級】	松井・鳥	春夏/秋冬 週2コマ×14週	中級レベルの文法、語彙を学び、読む、聞く、話す、書くの総合的な能力の伸長を目指す。
	松井・福岡		
Pre-advanced Japanese 【中上級】	太田・村上	春夏/秋冬 週2コマ×14週	中上級レベルの文法、語彙を学び、読む、聞く、話す、書くの総合的な能力の伸長を目指す。
	松井・福岡		

(担当者欄の上段が春夏学期、下段が秋冬学期、【 】は日本語レベル/ゴシックはコーディネーター)

(2)「全学共通教育科目」としての日本語科目

「全学共通教育科目」としての日本語科目は、基本的に週1回×14週(または週2回×7週)、技能別に関講される科目である。学部生以外の留学生はプレースメントテストの結

果をもとにそれぞれのレベルとニーズにあわせて選択、履修している。

学部生は上級後半レベル（表3の「日本語上級（読解）II」以降）の科目をそれぞれのニーズにあわせて選択、履修している。また、表3の「日本語I」「日本語II」に限っては学部生（1年生）対象の「第二外国語」または「外国語科目（選択）」として開講されている科目である。

表3：「全学共通教育科目」としての日本語科目

科目	担当者	コマ数	授業内容・到達目標
日本語中級（読解）	五味	春 週2コマ×7週	初級・中級レベルの文法と語彙を使って書かれた文章を読み、読解の基礎力を養成する。
	五味	秋冬 週1コマ×14週	
日本語中級（文章表現）	柳田	春夏/秋冬 週1コマ×14週	初級・中級レベルの文法と語彙を使って、文章表現の基礎力を養成する。
	柳田		
日本語中級（口頭表現）	宮部	春夏/秋冬 週1コマ×14週	初級・中級レベルの文法と語彙を使って、口頭表現の基礎力を養成する。
	宮部		
日本語中級（漢字語彙）	松井	春夏/秋冬 週1コマ×14週	中級レベルの漢字・語彙の基礎力を養成する。
	松井		
日本語中上級（読解）	五味	夏 週2コマ×7週	中上級レベルの文法と語彙を使って書かれた長めの文章を読み、読解の応用力を養成する。
	高	秋冬 週1コマ×14週	
日本語中上級（文章表現）	幸田	春夏/秋冬 週1コマ×14週	中上級レベルの文法と語彙を使って、文章表現の応用力を養成する。
	幸田		
日本語中上級（口頭表現）	柳田	春夏/秋冬 週1コマ×14週	中上級レベルの文法と語彙を使って、口頭表現の応用力を養成する。
	柳田		
日本語中上級（漢字語彙）	今村	春夏 週1コマ×14週	中上級レベルの漢字・語彙の応用力を養成する。
日本語中上級（文法）	太田	春/秋 週2コマ×7週	中上級レベルで適切な運用を行うために必要な文法知識を整理する。
	庵		
日本語上級（読解）I	高	春夏/秋冬 週1コマ×14週	テーマにそくした内容の文章を、適切な文体で書けるようになるためのトレーニングを行う。
	五味		
日本語上級（文章表現）I	阿部	春夏/秋冬 週1コマ×14週	文章の難易度や読む目的に合わせて、適切に内容を把握できるようになるためのトレーニングを行う。
	阿部		
日本語上級（口頭表現）I	村上	春夏/秋冬 週1コマ×14週	内容を正確に伝えることに加え、聞き手に配慮した話し方ができるようになるためのトレーニングを行う。
	村上		
日本語上級（文法）	庵	夏/冬 週2コマ×7週	上級レベルで適切な運用を行うために必要な文法知識を整理する。
	太田		

科目	担当者	コマ数	授業内容・到達目標
日本語上級(読解)II	庵	秋冬 週2コマ×7週	社会科学の専門書を読むのに必要な文法や語彙の知識を踏まえて、専門書を読むために必要なトレーニングを行う。
日本語上級(速読)	太田	春夏/秋冬 週1コマ×14週	新聞・雑誌・書籍を素材として、生の日本語から目的に応じて必要な情報を速く深く読み取るためのトレーニングを行う。
	今村		
日本語上級(近代文語文講読)	庵	秋冬 週1コマ×14週	明治以降の文語文を読むために必要な文法や語彙の知識を踏まえて、文語文を読むために必要なトレーニングを行う。
日本語上級(文章表現)II	阿部	春夏/秋冬 週1コマ×14週	文章の目的(内容、読み手など)に合わせて適切な文章を書けるようになるために必要なトレーニングを行う。
	阿部		
日本語上級(学術文章表現)	原田	春夏/秋冬 週1コマ×14週	アカデミックな場面で必要とされる、レポート・論文を書くのに必要な文章表現技術を身につけるためのトレーニングを行う。
	原田		
日本語上級(口頭表現)II	三枝	春夏/秋冬 週1コマ×14週	大学生活の様々な場面で必要なコミュニケーション・スキルを身につけるためのトレーニングを行う。
	三枝		
日本語上級(学術口頭表現)	柳田	春夏/秋冬 週1コマ×14週	アカデミックな場面で必要とされるプレゼンテーション・スキルなどを身につけるためのトレーニングを行う。
	柳田		
外国人留学生のための日本事情A	—	本年度休講	日本の近現代の文学作品を読み、日本文学に関する知識と読解能力を身につけるためのトレーニングを行う。
外国人留学生のための日本事情B	庵	秋冬 週1コマ×14週	日本の中世末期から現代までの歴史を概観し、日本史と日本事情に関する知識を身につけるためのトレーニングを行う。
日本語I	庵/五味	春夏 週2コマ×14週	【学部正規留学生のみ】社会科学の勉学に必要な日本語能力を総合的に養成する。
日本語II	西谷/五味	秋冬 週2コマ×14週	【学部正規留学生のみ】社会科学の勉学に必要な日本語能力を総合的に養成する。

(3)「学部教育科目」としての日本語科目

「学部教育科目」としての日本語科目は、基本的に週1回×14週(週2回×7週)開講される専門日本語を中心に扱う科目である。学部教育科目ではあるが、学部生以外にもブレイズメントテストで該当レベルと判定されたすべてのカテゴリーの留学生が対象である。

表4:「学部教育科目」としての日本語科目

科目	担当者	コマ数	授業内容・到達目標
経済の日本語中上級	西谷	春/秋 週2コマ×7週	中上級レベルの記事の講読・テレビ番組の視聴を通じて、経済・ビジネス分野の日本語・日本についての知識を身につける。
	西谷		
経済の日本語上級I	五味	春夏/秋冬 週1コマ×14週	上級レベルの記事の講読・テレビ番組の視聴を通じて、経済・ビジネス分野の日本語・日本についての知識を身につける。
	西谷		

1. 日本語教育部門

科目	担当者	コマ数	授業内容・到達目標
経済の日本語上級 II	今村	春夏／秋冬 週 1 コマ×14 週	日本経済新聞の記事や経済学の教科書を使用し、語彙・表現の細かなニュアンスに表れる筆者の視点や価値判断を読み取る。
	今村		
社会科学の日本語上級 A	高橋	春夏 週 1 コマ×14 週	社会学部で扱われている社会学・歴史学・政治学・教育学・哲学などの専門知識について広く理解させる。
社会科学の日本語上級 B	松岡	秋冬 週 1 コマ×14 週	社会科学・人文科学分野の論文を読み、各論文に出現する論文特有の語彙や表現などをカテゴリ別に整理することで産出に繋げる。
法の日本語	三枝	秋冬 週 1 コマ×14 週	法律や法律学に関する文章を読むために必要なトレーニングを行う。

(4) 「大学院科目」としての日本語科目

「大学院科目」としての日本語科目は、大学院生が履修可能な週 1 回×14 週開講される高度なアカデミック・ジャパニーズを中心に扱う科目である。

表 5 : 「大学院科目」としての日本語科目

科目	担当者	コマ数	授業内容・到達目標
経済学研究の日本語	今村	春夏／秋冬 週 1 コマ×14 週	経済学の専門文献の文面に表れる筆者の視点や立場を読み取る。また専門的な内容を論理的でわかりやすく発表する技術を学ぶ。
専門日本語表現技法 I	田中	春夏 週 1 コマ×14 週	言語・社会・文化を中心としたテーマでレポート・論文を執筆するために必要なトレーニングを行う。
専門日本語表現技法 IIA	柳田	春夏 週 1 コマ×14 週	言語・社会・文化を中心としたテーマでの口頭発表を行うために必要なトレーニングを行う。
専門日本語表現技法 IIB	柳田	秋冬 週 1 コマ×14 週	言語・社会・文化を中心としたテーマでの口頭発表を行うために必要なトレーニングを行う。

(5) 日本語・日本文化研修留学生プログラム

文部科学省の日本語・日本文化研修留学生プログラムにより来日した国費学部留学生を対象に、日本語・日本文化に対する理解を深め、自身のテーマを掘り下げることを目的とする。研修生は、各自の希望にあわせて日本語科目、全学共通教育科目、学部教育科目を履修しながら、各自のテーマで修了レポートの作成を行う。

表 6 : 日本語・日本文化研修留学生プログラム

科目	担当者	コマ数	授業内容・到達目標
Special Seminar on Japanese Language and Culture I	太田・庵	秋冬 週 1 コマ×14 週	日本語・日本文化研修生修了レポート執筆の準備を行う。
Special Seminar on Japanese Language and Culture II	太田・庵	春夏 週 1 コマ×14 週	日本語・日本文化研修生修了レポート執筆の準備を行う。

2016年度は6名の大使館推薦、2名の大学推薦の学生が本プログラムに参加し、2017年7月に修了レポートを提出してコースを修了した。2017年度は2017年9月より10名の大使館推薦の学生が本プログラムに参加している。2006年度10月来日学生から受け入れている大学推薦の学生については、2017年度は該当者がいなかった。コーディネーターは太田陽子。

(6) 大学院商学研究科経営学修士コース(留学生プログラム)の日本語科目

大学院商学研究科経営学修士コース(留学生プログラム)の日本語科目は、大学院商学研究科経営学修士コースに入学した新入生(留学生)が、半年後に専門教育を日本人と同様に受講できるようにするための、春夏学期開講の日本語集中教育科目群である。2012年度に新規開講されたときは受講者が12名で、1クラス開講だったが、2013年度以降は受講者が倍増したため2クラス開講となっている。コーディネーターは西谷まり。

表7: 大学院商学研究科経営学修士コース(留学生プログラム)日本語科目

科目	担当者	コマ数	授業内容・到達目標
日本語集中講義(留学生プログラム) A1・A2	山田	春夏 週1コマ×14週	コーポレートファイナンスの分野についての基本的な知識を身につけ、各自の研究を進める上で必要となる専門文献の内容を正確に把握する力を養成する。
日本語集中講義(留学生プログラム) B1・B2	志賀	春夏 週1コマ×14週	『日本経済新聞』『日経ビジネス』など、一般に広く読まれる時事的な経済関連の文章を素材に、商学・経済学の専門語彙・表現を身につける。
日本語集中講義(留学生プログラム) C1・C2	志賀	春夏 週1コマ×14週	組織デザイン、競争戦略論に関する文献を読むために必要となるアカデミックな読解力を、文献の精読を通して養成する。
日本語集中講義(留学生プログラム) D1・D2	西谷	春夏 週1コマ×14週	日本の企業経営・マーケティングなどの分野における現代的なトピックを題材に口頭発表を行い、意見交換を通して、口頭表現で聞き手に分かりやすく伝える力を身につける。
日本語集中講義(留学生プログラム) E1・E2	宮部	春夏 週1コマ×14週	受講者一人ひとりが、自身の研究分野についての研究計画書やレポートを、論文にふさわしい文体と文章構成で書けるようになるための文章作法を学ぶ。
日本語集中講義(留学生プログラム) F1・F2	松岡	春夏 週1コマ×14週	日本の戦前の経済・経営に関わる資料を読み、近代文語文特有の表現に精通するとともに、日本の近代化についての基本的な知識を身につける。
日本語集中講義(留学生プログラム) G1・G2	志賀	春夏 週1コマ×14週	日本経済、企業、ビジネスといったテーマのビデオ映像や聴解教材を視聴することを通し、商学研究科の授業にスムーズに参加できる聴解力を総合的に育成する。
日本語集中講義(留学生プログラム) H1・H2	山田	春夏 週1コマ×14週	『日経ビジネス』『一橋ビジネスレビュー』などを材料に、専門について書かれた長い文章を短時間で内容を的確に読み取る速読の訓練を行う。

1. 日本語教育部門

なお、日本語教育部門の教員は、日本語科目のほか、留学生を含む学部生一般を対象とした全学共通教育科目である「現代日本語論」「日本語研究入門」「教養ゼミナール」、学部3、4年生を対象とした「共通ゼミナール」も担当している。

表 8：学部生対象の日本語関係科目

科目	担当者	コマ数	授業内容・到達目標
現代日本語論	—	本年度休講	文法、表記、表現選択などを意識化、対象化して学ぶことによって、文章技術の向上を目指す。
日本語研究入門	庵	春夏 週 1 コマ×14 週	母語話者にとっては生得的な、留学生にとっては習得した日本語を、対象化し、そこに存在する「しくみ」について理解することを目指す。
教養ゼミナール	今村	春夏 週 1 コマ×14 週	日本語教育学や日本語学の知見から出発して、メディアの具体的な誘導手法に触れることを通して、メディアを批判的・主体的に読み解くための能力を身につける。
共通ゼミナール	庵	春夏/秋冬 週 1 コマ×14 週	【学部 3, 4 年生】日本語関連の内容について卒業論文のための訓練を行う。
共通ゼミナール	今村	春夏/秋冬 週 1 コマ×14 週	【学部 3 年生および日研生】日本語文法および日本語教育の文献を読み、討議するほか、日研生においては、各自の専門分野における日本語の資料を比較検討し、レポート作成の指導をする。
共通ゼミナール	今村	春夏/秋冬 週 1 コマ×14 週	【学部 4 年生】日本語文法および日本語教育の文献を読み、討議する。

5. 2017 年度日本語科目履修者数

2017 年度に開講した日本語科目の履修者数は表 9 のとおりである。春夏学期は合計 391 名、秋冬学期は 507 名が日本語科目を履修した。その他、外国人研究員、教員等も若干名受講した。

表 9：2017 年度日本語科目履修者数一覧

科目名	春夏学期	秋冬学期
Survival Japanese	14	6
Basic Japanese I	9	9
Basic Japanese II	2	11
Intermediate Japanese IA	3	7
Intermediate Japanese IB	5	7
Intermediate Japanese IC	5	5
Intermediate Japanese II	8	12
日本語中級（読解）	12	11
日本語中級（文章表現）	14	14
日本語中級（口頭表現）	8	10
日本語中級（漢字語彙）	19	14
Pre-Advanced Japanese	10	8

科目名	春夏学期	秋冬学期
日本語中上級(読解)	15	8
日本語中上級(文章表現)	5	19
日本語中上級(口頭表現)	14	17
日本語中上級(漢字語彙)	6	13
日本語中上級(文法)	11	13
経済の日本語中上級	5	4
日本語上級(読解) I	11	21
日本語上級(文章表現) I	13	18
日本語上級(口頭表現) I	4	24
日本語上級(文法)	12	20
Special Course on Japanese Language and Culture I	—	10
Special Course on Japanese Language and Culture II	8	—
経済の日本語上級 I	7	19
日本語上級(読解) II	—	12
日本語上級(速読)	13	16
日本語上級(近代文語文講読)	—	15
日本語上級(文章表現) II	16	25
日本語上級(学術文章表現)	24	12
日本語上級(口頭表現) II	25	21
専門日本語表現技法 I	11	—
日本語上級(学術口頭表現) / 専門日本語表現技法 IIA・IIB	26	15
経済の日本語上級 II	18	13
経済学研究の日本語	10	12
社会科学の日本語上級 A	23	—
社会科学の日本語上級 B	—	23
法の日本語	—	15
外国人留学生のための日本事情 A	休講	—
外国人留学生のための日本事情 B	—	21
日本語 I	5	—
日本語 II	—	7
合計	391	507

* 「—」は当該学期に開設なし

* 日本語上級(学術口頭表現)・専門日本語表現技法 IIA・IIB は全学共通教育科目と大学院科目 同時開講の科目である。

6. 2017 年度の取り組み

2017 年度は 4 学期制への移行を機に、留学生の日本語レベルやニーズに対応するため、日本語レベルの改編を行った。日本語レベルの新旧対照表を表 9 に示す。具体的には、所属大学で初級を終えて来日する交換留学生のレベルと本プログラムで提供する中級レベルに乖離が見られる状況がここ数年続いてきたため、2016 年度まで「中級前半」としてきたレベルを「中級前半」と「中級」に分け、中級前半では初級から中級への橋渡しを重点的に行うこととした。それに伴い、これまで「中級後半」と呼んできたレベルの名称を「中上級」に改めた。また、2017 年度は国際課スタッフの協力を得て日本語教育プログラムの

web ページの大幅な改編を行い、本学の留学生だけでなく本学への留学を考えている留学生、交流協定校等への情報発信力の強化を図った。併せて、本学の web シラバス (Mercas) の記載の充実にも部門全体で取り組んだ。

表 10 : 日本語レベル新旧対照表

2016 年度まで	2017 年度以降
初級前半	初級前半
初級後半	初級後半
中級前半	中級前半
	中級
中級後半	中上級
上級前半	上級前半
上級後半	上級後半

(文責 : 柳田 直美)